学校番号	３２０

令和２年度　数学科

教科	数学Ⅰ	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	数学Ⅰ改訂版　（啓林館）						
副教材等	エスコート　（啓林館）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

定期的に宿題を出します。継続して復習する習慣を身に付けましょう。

2　学習の到達目標

基礎的な問題を確実に解けるようにする。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	数学的活動を通して，数と式，集合と論証，2 次関数，図形と計量およびデータの分析における考え方に関心をもつとともに，数学的な見方や考え方のよさを認識し，それらを事象の考察に活用しようとする	数学的活動を通して，数と式，集合と論証，2 次関数，図形と計量およびデータの分析における数学的な見方や考え方を身につけ，事象を数学的に捉え，論理的に考察するとともに，過程を振り返り多面的・発展的に考察し，表現できる。	数学的活動を通して，数と式，集合と論証，2 次関数，図形と計量およびデータの分析において，事象を数学的に考察し，処理する仕方や推論の技能を身につけ，的確に問題を解決できる。	数学的活動を通して，数と式，集合と論証，2 次関数，図形と計量およびデータの分析おける基本的な概念，原理･法則，用語・記号などを理解し，基礎的な知識を身につけている。
評価方法	確認テスト ワークシート レポート 観察等	確認テスト ワークシート レポート 観察等	確認テスト ワークシート レポート 観察等	確認テスト ワークシート レポート 観察等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	数と式	1　式の計算 2　実数 3　1次不等式	○	○	○	○	a: 整式の同類項をまとめ整理し，整式の次数を求めることに興味をもって取り組もうとしている。 b: 1次不等式の解と解法を理解し，解の意味について考察することができる。 c: 根号を含む式の計算や有理化ができる。 d: 因数分解の公式を理解し，式を因数分解するための基礎的な知識を身につけている。	・課題の提出状況 ・副読本の問題の チェック ・出席状況 ・定期考査 ・授業態度等
1	集合と論証	1 集合 2 命題と論証	○	○	○	○	a: 和集合や補集合に関心をもつ。 b: 全体集合や補集合，部分集合，共通部分，和集合，ド・モルガンの法則などを用いて具体的な事象について考察することができる。 c: 対偶を利用した証明や，背理法による証明ができる。 d: 命題の逆・裏・対偶について理解し，背理法などの証明の論理性について理解している。	・課題の提出状況 ・副読本の問題の チェック ・出席状況 ・定期考査 ・授業態度等
2	2次関数	1 2次関数とそのグラフ 2 2次方程式と2次不等式	○	○	○	○	a: 2次関数のグラフとx軸の共有点を求めるのに，2次関数のグラフを積極的に活用しようとしている。 b: 2次不等式の解について，グラフと x 軸との位置関係と関連させて考察することができる。 c: 連立2次不等式の解を求めることができる。 d: 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数を求めるための基礎的な知識を身につけている。	・課題の提出状況 ・副読本の問題の チェック ・出席状況 ・定期考査 ・授業態度等

2	図形と計量	1 鋭角の三角比 2 三角比の拡張 3 三角形への応用	○	○	○	○	a: 直角三角形の 3 辺の比から三角比を定義し，角の大きさに対応する三角比という計量の考えの有用性を認識しようとしている。 b: 三角比を鋭角から鈍角まで拡張することについて考察することができる。 c: 正弦定理，余弦定理などを平面図形や空間図形の計量に応用できる。 d: 三角比の相互関係を理解し，正弦・余弦・正接を求めるための基礎的な知識を身につけている。	・課題の提出状況 ・副読本の問題の チェック ・出席状況 ・定期考査 ・授業態度等
3	データの分析	1 データの整理と分析 2 データの相関	○	○	○	○	a: データの散らばり具合を，四分位数，箱ひげ図，分散，標準偏差などを用いて調べようとしている。 b: 散布図や相関係数を用いて，データの相関関係を考察することができる。 c: データの平均値，中央値，最頻値を求めることができる。 d: 相関係数の定義を理解し，相関係数を求めるための基礎的な知識を身につけている。	・課題の提出状況 ・副読本の問題の チェック ・出席状況 ・定期考査 ・授業態度等

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:数学的な見方や考え方
c:数学的な技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。